

企業短期経済観測調査（道北*地域分）
（調査対象企業：道北*43社）

※上川、宗谷、オホーツク総合振興局管内
回答社数構成比 %ポイント
()内は前回調査時予測

（判断D. I.）

	2018/12月	2019/3月	6月	9月	12月	2020/3月	2020/6月 までの予測
業況判断 < 良 - 悪 >	11	7	16	21	24	(7) 15	▲19
うち製造業	22	11	22	33	33	(33) 33	22
非製造業	9	6	15	18	21	(0) 9	▲30
国内での製商品・サービス需給 < 需要超過 - 供給超過 >	▲3	▲3	▲2	▲3	▲5	(▲15) ▲15	▲22
製商品在庫水準 < 過大 - 不足 >	▲4	▲4	▲3	0	0	▲3	—
生産・営業用設備 < 過剰 - 不足 >	▲7	▲16	▲9	▲12	▲14	(▲12) ▲5	▲10
雇用人員 < 過剰 - 不足 >	▲47	▲50	▲48	▲46	▲54	(▲68) ▲46	▲56
資金繰り < 楽である - 苦しい >	14	11	14	19	12	5	—
金融機関の貸出態度 < 緩い - 厳しい >	29	27	35	33	35	36	—
借入金利水準 < 上昇 - 低下 >	▲2	▲8	▲8	3	0	(5) 2	5
販売価格 < 上昇 - 下落 >	▲5	5	4	▲2	0	(3) ▲5	▲2
仕入価格 < 上昇 - 下落 >	36	36	33	15	30	(37) 22	32

（注）「製商品在庫水準判断」、「資金繰り判断」および「金融機関の貸出態度判断」の「2020/6月までの予測」は調査対象外。

（事業計画）

全産業、前年度比%、
< >内は前回調査比修正率%

	2018年度実績	2019年度実績見込				2020年度計画		
		上期		下期		上期	下期	
売上高	-2.6	-1.7 < +0.7 >	+0.4 < +0.9 >	-3.6 < +0.6 >	-4.3	-4.5	-4.2	
経常利益	-19.8	-13.3 < +6.9 >	-8.9 < +7.6 >	-19.0 < +5.8 >	-14.7	-26.1	+1.6	
当期純利益	-34.7	+3.7 < -5.4 >	-8.8 < +6.1 >	+39.4 < -21.3 >	-10.2	-22.2	+12.3	
設備投資額	-40.7	+58.2 < +2.9 >	—	—	-25.8	—	—	

（注）2020年3月調査より「設備投資額」の年度上期・下期の別調査は廃止となりました。

道北地域の企業短期経済観測調査結果（2020年3月）の概要

- 調査対象企業：道北地域 43 社（製造業 9 社、非製造業 34 社）
- 回答率 97.7%（有効回答社数 42 社）
- 回答期間：2020年2月25日～3月31日

1. 業況判断 DI

- 3月の業況判断 DI（全産業ベース、DI：%ポイント<以下同じ>）は+15。前回12月調査に比べて4期振りに悪化した（前回+24、前回比▲9）。
 - 製造業の業況判断 DI は+33 と前回調査比横這い。
 - 非製造業の業況判断 DI は+9。建設関連で改善した先もあったが、宿泊・飲食サービスが大幅に悪化したほか、卸・小売、運輸も悪化し、前回調査比悪化した（前回+21、前回比▲12）。
- 先行きの業況判断 DI は、悪化を見込み、マイナス転化するとの予測（2020年6月までの予測：+15⇒▲19）。
 - 製造業は、悪化の見込み（+33⇒+22）。
 - 非製造業は、建設、卸・小売で悪化を見込む先が多く、マイナス転化する見込み（+9⇒▲30）。

2. 各種判断 DI

- 「製商品・サービス需給判断 DI<需要超過－供給超過>」（▲5⇒▲15）は、卸・小売、宿泊・飲食サービスが供給超幅を拡大したほか、建設が需要超幅を縮小したことから、全体では供給超幅が拡大した。先行きは、供給超幅がさらに拡大する見通し（⇒▲22）。「製商品在庫水準判断 DI<過大－不足>」（±0⇒▲3）は、卸・小売で不足超となったことから、全体でも不足超に転化した。
- 「生産・営業用設備判断 DI」<過剰－不足>」（▲14⇒▲5）は、製造業が不足超となったものの、宿泊・飲食サービス、卸・小売、運輸で不足超過が解消したことから、不足超幅が縮小した。先行きは、卸・小売が不足超に転化するため、全体では不足超幅は拡大する見通し（⇒▲10）。
- 「雇用人員判断 DI<過剰－不足>」（▲54⇒▲46）は、製造業で不足超幅が拡大したものの、卸・小売、宿泊・飲食サービスで不足超幅が縮小したため、

全体では不足超幅は縮小した。先行きは、製造業のほか、建設、卸・小売等で不足超幅がさらに拡大するため、全体でも不足超幅が拡大する見通し（⇒▲56）。

- 企業を取り巻く金融環境についてみると、「資金繰り判断 DI<楽である－苦しい>」（+12⇒+5）は、「楽である」との回答先が減少し、「苦しい」との回答先が増加したため、「楽である」超幅が縮小した。一方、「金融機関の貸出態度判断 DI<緩い－厳しい>」（+35⇒+36）は、大幅な「緩い」超幅が前回調査比でさらに拡大したほか、「借入金利水準判断 DI<上昇－低下>」（±0⇒+2）は、「低下」との回答先が減少し、上昇超となった。
- 「仕入価格判断 DI<上昇－下落>」（+30⇒+22）は、製造業や宿泊・飲食サービス等で上昇超幅が縮小したため、全体では上昇超幅が縮小した。先行きは、卸・小売で±0 から上昇超となるほか、建設、運輸で上昇超幅がさらに拡大するため、全体で上昇超幅は拡大する見通し（⇒+32）。「販売価格判断 DI<上昇－下落>」（±0⇒▲5）は、建設が±0 から上昇超となったものの、卸・小売、宿泊・飲食サービスが下落超に転化したことから、全体でも下落超となった。先行きは、宿泊・飲食サービスで下落超幅が拡大するものの、製造業が上昇超となるほか、卸・小売が下落超幅を縮小することから、全体では下落超幅が縮小する見通し（⇒▲2）。

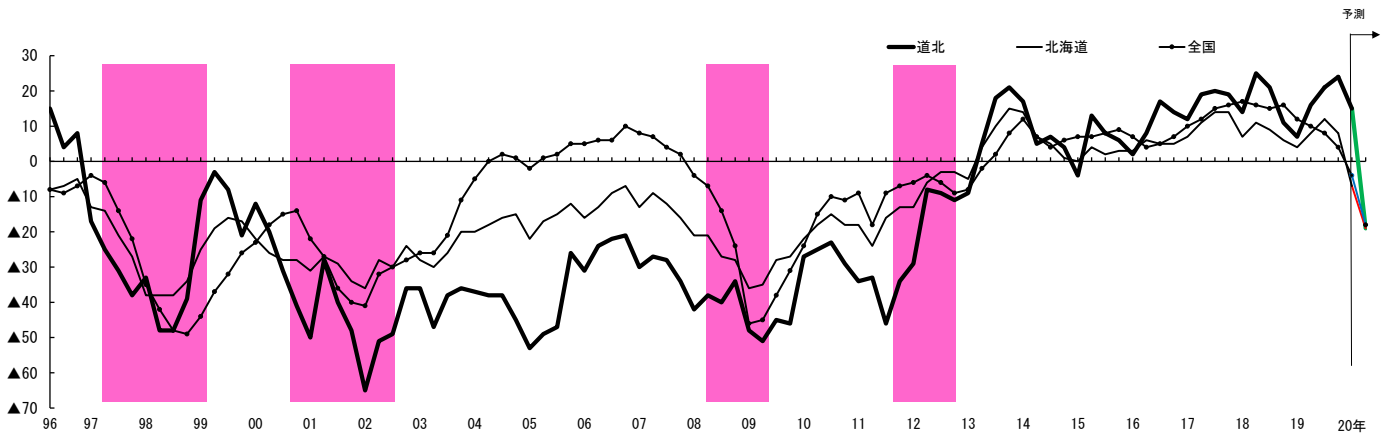
3. 事業計画

- 2019 年度の実績は、売上高は前年度比▲1.7%、経常利益は同▲13.3%、当期純利益は同+3.7%となる見込み。設備投資額は同+58.2%の大幅増加で着地する見込み。売上高、経常利益、設備投資額は前回調査比で上方修正された。
- 2020 年度の計画は、売上高は前年度比▲4.3%、経常利益は同▲14.7%、当期純利益は同▲10.2%、設備投資額は同▲25.8%となっている。

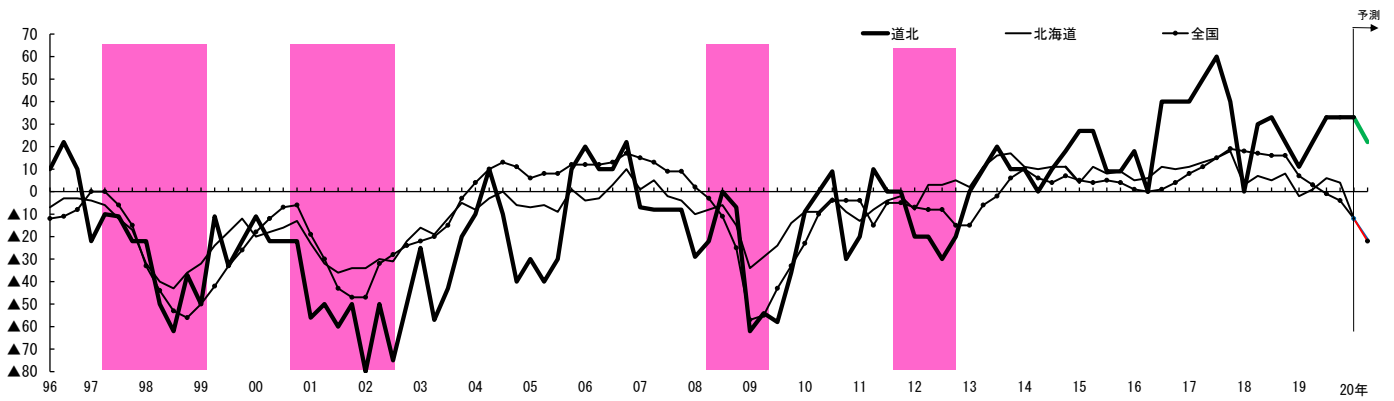
以 上

2020年3月短観・調査結果

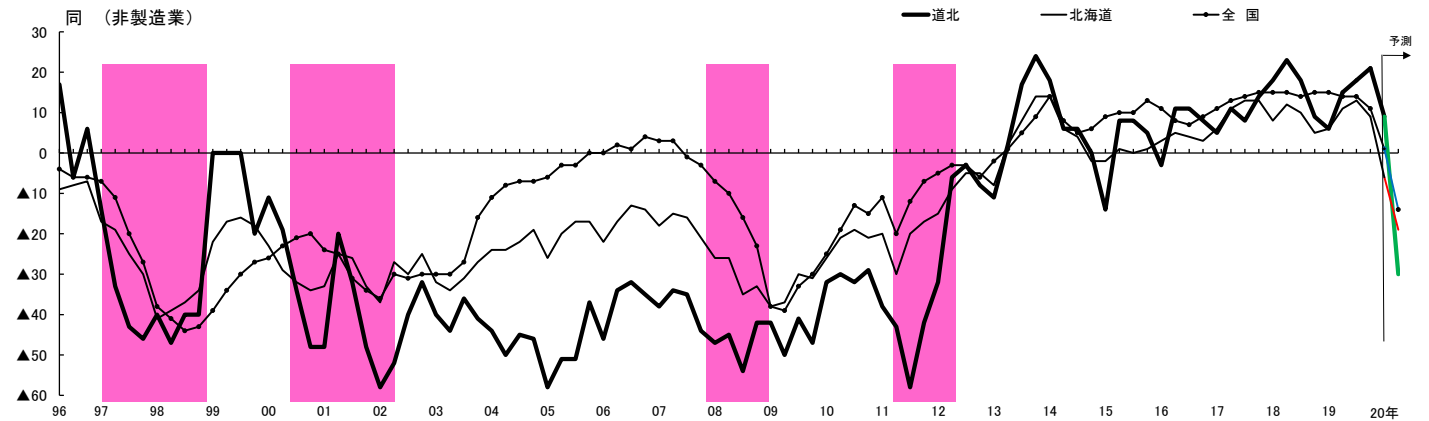
業況判断D. I. (「良い」－「悪い」、%ポイント)



同 (製造業)



同 (非製造業)



(注)

道北：上川、宗谷、オホーツク総合振興局管内

全国、北海道は2017/9月以前は調査対象企業見直し前の旧ベース、2017/12月以降は見直し後の新ベース。

ピンクシャドウは景気後退期（内閣府調べ）